

清流

題字：芳野 充

令和5年8月30日
第80号

発行所 加来不動産(株)
発行者 加来 寛
北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに
静かに
清流ように

いまのわたしは、「思い」と「行動」の結果

人は同じものを見ても、同じものを聞いても人それぞれ思い方はバラバラです。昔から十人十色という言葉がそれをあらわしています。

例えば犬をみても「かわいい」と思う人は、近づいて頭をなでるでしょうし、「こわい」と思う人は距離をとって近づこうとしないはずです。ですが、なぜ人はそれぞれ思いが違うのでしょうか。それは人にはみな「自我」と「業」の意識があるからです。

自我の意識は、「自分」と「他」を区別する働きがあります。「わたしは、加来寛だ」と自覚できるのは、この自我の働きです。

業の意識は、いままでの経験や知識をすべて貯蔵する蔵のようなものです。この「蔵」にたくわえられた情報をもとに、新しい判断を下し次の行動を起こします。練習しコツをつかむことで上達していく。また、世の中の発明や発展など、いずれも業の働きによるものだと言えます。

この「自我」と「業」の意識はわたしたち人にとって必要な意識ですが、何も手を打たなければ年齢とともに過剰にはたらく、心のクセとなる傾向にあります。また始末がわるいのが、自分で正そうと思っても無意識に働いてしまう意識なので、なかなか自分で正せない、という特徴があります。

「自我」の意識は、自分を特別あつかいするあまり「自分さえ良ければ」と、利己的でわがままな人間になります。「業」の意識は自分の経験を絶対視し、固定観念や頑固さ、トラウマをうみ正しい判断ができなくなります。人は誰しも「心のクセ」をかかえています。だから人間関係はむずかしく、衝突がたえません。

人は外からの情報や刺激をうけて何かを「思い」、その「思い」にしたがって「行動」します。わたしも動機はどうあれ「家業を手伝おう」と思ったから、加来不動産で働いています。つまり、現在のわたしは「思い」と「行動」の結果に他なりません。

もしいまの自分が「つらい」「どうも人生がうまくいかない」と思うのであれば、気づかないうちにクセのある「思い」をうみ、それがまわりに不快な思いや不満を抱かせる「行動」をくり返してきた結果かもしれない。逆にいまの自分が「しあわせだ」「人生は素晴らしい」と思うのであれば、正しい「思い」にしたがい、人に安心とよろこびを与える「行動」をくり返してきた結果なのではないでしょうか。

現在の自分を静かに見つめる。そして「しあわせだ」と思える場所から遠のいているのであれば、自分自身の心のクセを自覚し、なんとかそれを正していく努力と工夫を積みかさねる。それが「良い人生だ」と、心から思えるコツではないでしょうか。